

一文字か二文字か



(a) 今回から、史料が別の部分に変わりました(資料番号は01018-8-58の別の部分です)。少しずつ慣れてきていると思いますので、今回から、史料全体を翻刻したもの(活字に直したもの)を載せ、特にポイントになりそうな所だけ、くずし字を読んでいきたいと思います。右の翻刻された史料(読みやすくするために読点を多めに入れてあります)の(a)の部分が、右の(a)のくずし字になります。やり方としては、くずし字だけを、(a)から順に、腕試しに読んで行ってください。その時、右に載せてある翻刻は、前後から字を推測したいときなどに、参考程度に使ってください。

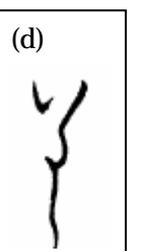
(a)は、最初の**目**が「目」、次の字が読みにくいと思いますが、**立**は一文字ではありません、というのが最大のヒントになると思います。下の方にある**立**という部分が「候」に見えれば、「目立候」で解決です。



(b)の部分は、**黒**は上に「里」のような字があって、下に「ハ」ですから、「黒」。その下の**土**は「土」で、次

は「付」。最後の**等**は「等」ですから、「黒土付等」となるようにも見えますが、「黒土」が「付いている」とは何?と考えると、よくわかりません。そこで、発想を転換して、「黒土」は1文字では?と考えると、「墨」という字が思い当たります。「黒土付」と思っていたところは、「**墨付**」だとすると、意味が通ります。

(c)は、腕試しのようなものですが、**之**が読めるかどうかです。次の**之**が「之」なので、第24回で出てきた「有之」(これある)となります。最後の**之**は、この字だけではよくわかりませんが、「これある」なので、右下の**之**というパーツからも考えて、「節」という字が思い当たります。



(d)は、翻刻した右上を見ると「添書等(d)候義」となっています。また、字の感じから、(d)の部分が平仮名だということはわかるかもしれませんが、最初の**い**は「い」?、次の**た**が?、最後の**し**は「し」?、という感じだと思えますが、**た**は「多(た)」という字です。したがって(d)は「いたし」です。なお、平仮名の「た」は「太」という字を崩した字です。

史料 (a) 紙生地、かみきじ または (b)、御證文二 (c)、おそれたまつり 奉恐後難御
 難を恐れ奉り、添書等 (d) 候義、(e) も有之候處、もちあり (f) 當組合之
 儀、(g) 其宿 (h) 申訳相立、(i) 之難儀ヲ不顧、(以下略)

